

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年12月17日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---|
| 事業所番号 | 4070001211 |
| 法人名 | 特定・特別医療法人 陽明会 |
| 事業所名 | グループホームつくし |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県京都郡みやこ町勝山松田1133 (電話) 0930-32-5523 |
| 評価機関名 | 社団法人 福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成21年11月7日 |

【情報提供票より】(平成21年10月7日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 4月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 15 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| 常勤 | 7人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.28人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> | 新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> |
| 建物構造 | 木造 | |
| | 1階建ての | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|---------------------------------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 49,500 円 | その他の経費(月額) | 6,000 円 | |
| 敷金 | 有() 円 | 無 <input checked="" type="checkbox"/> | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有() 円 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 900 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成21年10月7日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 15 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 8 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 86.7 歳 | 最低 | 79 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | 御所病院、小波瀬病院 |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は静かな住宅街であり、その一角に昔のままの外装を残した大きな邸宅を増改築した2ユニットのグループホームがある。法人母体は医療法人であり、病院、老人保健施設、訪問看護、通所介護などを開設し、医療・福祉の連携が図られている。共有できる広いウッドデッキがあり、そこは毎日の集団リハビリやレクリエーションの場として、また利用者同士の交流の場となっている。ウッドデッキから眺めることのできる日本庭園は、利用者の癒しの空間となっている。ホームが目指しているのは、利用者が「その人らしく」暮らすことであり、職員は常にそのことを念頭に置いて、利用者の立場にたって対応している。そのために業務改善やサービスの質の向上に向けた研修会や勉強会を充実させており、職員自身のスキルアップにも繋がっている。利用者や職員のやりとりは温かみがあり、利用者と共に過ごす生活空間が大切にされている。今後、さらに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善課題となっていた「鍵をかけないケアの実践」については、前回同様、法人や全職員で改善に向けて相談や話し合いをされているが改善までには至っていない。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義を踏まえ、自己評価は全員で話し合いを行い取り組んだ。また、自己評価に取り組むことで改めて日々の業務やサービスを再度振り返ることができ、見直しの良い機会となっている。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回の運営推進会議には、利用者・家族・町の職員・法人職員・管理者・ケアマネジャー・ホームの職員が参加し、ホームの状況報告、連絡事等を伝えている。区長へは参加依頼をしているが参加の都合が合わないときがあり、その際は議事録、つくし通信にて報告している。会議では、問題提起や意見交換があり、それらを日々の支援や業務に活かしている。また、運営推進会議と同じ日に家族会も開いており、家族間の意見交換の場や職員、利用者、家族との交流の場にもなっている。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 玄関に意見箱を設置している。2ヶ月に1回の家族会、日々の家族の訪問時に、家族からの相談ごとやホームに対しての意見、苦情を受け止めており、その内容を職員全員に伝え、運営や業務に反映させている。また、毎月つくし通信を発行し、利用者のホームでの日々の暮らしぶりや行事報告・予定、意見、家族の声を記載し配布している。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会へ入会はしていないが、町内行事、花火大会や夏祭り、ホーム周辺の空き缶拾いや草取りには参加している。散歩や買物に出掛けるときなど地域の方と会話を楽しんだり、花をいただくなどして交流が増えている。また、ホームの職員が地域の医療・福祉の場へ出向き、認知症に対する講師をするなどの地域活動も活発に行われている。 |

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者が「その人らしく」をモットーとし、住み慣れた地域の中で安心して生活が続けられ、利用者へ相談・助言などの支援ができることに重点を置いた理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日、朝の申し送り時に職員で唱和し、理念の大切さを共有、実践に取り組んでいる。利用者の「その人らしさ」を常に思い、職員中心のケアになっていないかなど、注意点の話し合いを毎月行い、ケアの統一を目指し確認しあっている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会へ入会はないが、町内行事、花火大会や夏祭り、ホーム周辺の空き缶拾いや草取りには参加している。散歩や買物に出かけたときなど地域の方と会話を楽しんだり、花をいただくなどして交流が増えている。また、ホームの職員が地域の医療・福祉の場へ出向き、認知症に対する講師をするなどの地域活動も活発に行われている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 毎月の定例会議やミーティングの時に外部評価の意義、目的を職員に伝え、職員全員で共有化を図ると共に、評価に取り組んでいる。日々の業務を見直す良い機会となっており、改善に向けてサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の運営推進会議には、利用者・家族・町の職員・法人職員・管理者・ケアマネジャー・ホームの職員が参加し、ホームの状況報告、連絡事等を伝えている。区長へは参加依頼をしているが、参加の都合が合わないときがあり、その際は議事録、つくし通信にて報告している。会議では、問題提起や意見交換があり、それらは日々の支援や業務に活かしている。また、運営推進会議と同じ日に家族会も開いており、家族間の意見交換の場や職員、利用者、家族との交流の場にもなっている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町の職員が参加する地域のグループホーム連絡協議会に必ず参加し、介護保険制度について相談したり、助言をもらっている。また、町の社会福祉協議会から介護相談員に毎月訪問してもらい、利用者の話を聞いてもらったり、相談に応じてもらうなどサービスの質の向上に繋がるよう努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 契約時に、必ず本人、家族へ制度について説明を行うなど情報の提供を行っている。利用者、家族、職員がいつでも資料の閲覧ができるように玄関に資料を置いている。制度についてマニュアルをもとに研修会を行い、利用者や家族が必要ときに職員が助言や支援ができる体制作りに取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 2ヶ月に1回開催の運営推進会議を兼ねる家族会の時や訪問時に、利用者の日々の暮らしぶりの報告、ホームの行事報告、案内などを記載したつくし通信を配布している。家族の訪問時は現金出納帳の確認をしてもらい確認印をもらったり、受診結果の報告などを行っている。 | | |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱の設置をしている。普段から意見や苦情が言いやすいように職員全員が、家族の意向や要望を伺うなど、利用者・家族とのコミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。家族会等で出た意見は、職員全員で検討会を開くなど、運営や業務に反映するように努めている。 | | |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人内の異動は極力控えている。やむを得ない職員の離職や職員の希望による異動の際は3カ月前に申し出るようにし、利用者のダメージを最小限に防ぐように努めている。また、ユニットごとに職員を固定して配置していない。新しい職員の紹介は家族会などで行っている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用にあたっては、性別・年齢などを理由に採用対象から排除することはない。資格取得の支援や内・外部研修への参加の機会拡大に努めている。また、希望休や有給休暇も気軽に取れるように配慮がされている。 | | |
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 法人内、ホーム内で人権教育に取り組んでおり、研修会や勉強会が行われている。業務中においても常に、利用者に対する人権の尊重を意識して対応するようにミーティング時に職員全員で話し合われており、意識向上に繋がるような取り組みをしている。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的な研修会の機会を設けたり、職員に対し外部研修や資格取得の制度も整えており、法人全体で段階的に研修を行い、スキルアップに向けた取り組みが行われており、学ぶ機会が多く設けられている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2カ月に1回地域のグループホーム連絡協議会に参加し、お互いの情報交換を行っている。事例検討会や色々な意見交換ができ、その事が運営に活かされ、サービスの質の向上、職員の意識向上に繋がっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者の気持ちの負担にならないように見学や体験利用をもらったり、気軽にホームに昼間遊びに来てもらったりしている。また、必要に応じて家族に泊ってもらい、少しずつホームに馴染んでもらえるよう、利用者の気持ちを尊重した対応に努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 調理方法や掃除・洗濯など、昔ながらの生活の知恵を利用者から教えてもらうことがある。また、利用者がホームの中で役割を担い職員と共に作業したりすることが多く、支えあう関係を築いている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中での表情、不穏な行動や様子、発語内容等、それらを個別のケース記録に記入し、職員間での申し送りなどで情報を共有している。また、家族の訪問の際、家族から情報収集して、利用者の思いを汲み取っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を聴き取り、かかりつけ医や必要な関係者、職員からの意見を聞き取って、それを基にそれぞれのアイデアが反映されたものを、計画作成担当者が作成している。 | | |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎週日曜日にケースカンファレンスを実施し、状態の把握に努めている。毎月1回モニタリング、3ヶ月に1回評価を実施しており、医師・看護師・理学療法士・作業療法士等の関係者からの意見を伺いながら現状に即した計画づくりに努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院の支援や入院時の支援、利用者の自宅になった柿や梅を摘みに行くことやお墓参り、友人宅へ訪問するなど、柔軟な支援をしている。また、家族が宿泊を希望した際は、同じ部屋に泊まれるよう対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居の際、利用者・家族と話し合い、同意を得た方には併設する病院の医師をかかりつけ医としている。かかりつけ医からは定期的に往診を受け、リハビリが必要な方は併設する病院でリハビリを受けている。以前からの馴染みのかかりつけ医への受診支援は家族にお願いし、受診状況等結果を家族から聞いている。 | | |
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りについての同意書を作成しており、契約時にホームの方針を説明している。重度化した際は併設している病院・老人保健施設へ入院・入所することもあるが、本人・家族・関係者が状態を確認しながら話し合い、方針の共有を図っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉遣いなど気になることがあればその都度、管理者が指導している。また、利用者の尊厳を傷つけないようお互い注意し合うよう努めている。個人情報などは事務所に保管しプライバシー保護に努めている。 | | |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れはおおまかに決まっているが、その日のレクリエーションや行事を利用者に提案を求め、希望に沿うように努めている。寝たいときには寝たり、食事の時間にゆとりをとったり、一人ひとりのペースに合わせて対応をしている。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立の要望を取り入れて、昼・夕食は法人で作られた食事であるが、毎週木曜日と朝食はホームでの調理となっている。皮むきなどの下ごしらえや盛り付け、片付け等職員と一緒に、同じテーブルで同じものを食べ笑顔が見られる楽しい食事時間の提供に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|------|---|
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 1日おきの13:30から16:00の間を入浴時間とし、仲が良い利用者同士で入るなど、希望にあわせた支援をしている。この時間外にも入浴の希望があれば応じている。入浴を拒む利用者には声かけ・促し・タイミングを図るなど工夫し、清潔保持に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | かつて旅役者をしていた方はみんなに踊りを見せることで張り合いを持つことができている。その他、ホーム敷地内の草むしり・食器の片付け・掃除・洗濯物たたみなど、それぞれの役割や楽しみごとの支援により、自分らしく暮らせるよう配慮している。 | | |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩コースは3パターンあり、天候や心身の状態に応じて変え、気分転換を図っている。その他、日用品の買い物、美容院へ行く、外食等、一人ひとりの希望に添いながら外出支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかける弊害は理解しているが、玄関は施錠されている。今後は施錠しないことを目標に、利用者が外に出て安全なようにホーム敷地内の危険な箇所の把握や、門扉をジャバラ式から開閉しやすいタイプへの変更等、自由に入出入りできる環境づくりを検討中である。 | ○ | 今後、日中鍵をかけないケアの実践が期待される。 |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 昨年までは、昼間・夜間を想定して定期的に隣接する病院・老人保健施設・デイケア等と合同訓練をしていたが、今年は人員の都合上、1度も訓練が実施されていない。 | ○ | 災害時には多くの人手が必要になると想定され、地域の協力体制や各職員の連絡体制・役割など具体的な手順を整備し、職員間で周知しておくことが求められる。また、法人合同で行う際の役割分担や備蓄について各事業所で再度話し合いが望まれる。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の栄養士が献立を作成し、法人一括で調理されている。ホームにおいて嚥下が悪い方には”刻む”などその人にあわせた支援をしている。食事摂取量や飲水量は記録により把握され、毎月1回体重測定で栄養状態の過不足を把握している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体的に木の温かみを感じられる造りになっており、テーブルやソファで自由にくつろげるようになっている。リビングからはウッドデッキにつながり、すばらしい日本庭園が眺められ、利用者の癒しの空間となっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|---|--|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>造りが異なった部屋があり、窓を大きくとるなどそれぞれ工夫されている。居室には使い慣れた椅子や家族の写真や位牌などが持ち込まれている。また、状態に合わせてポータブルトイレを置く等、本人に合わせた居室となっている。</p> | | |